

# 令和元(2019)年産なしの管理ポイント (第5報)

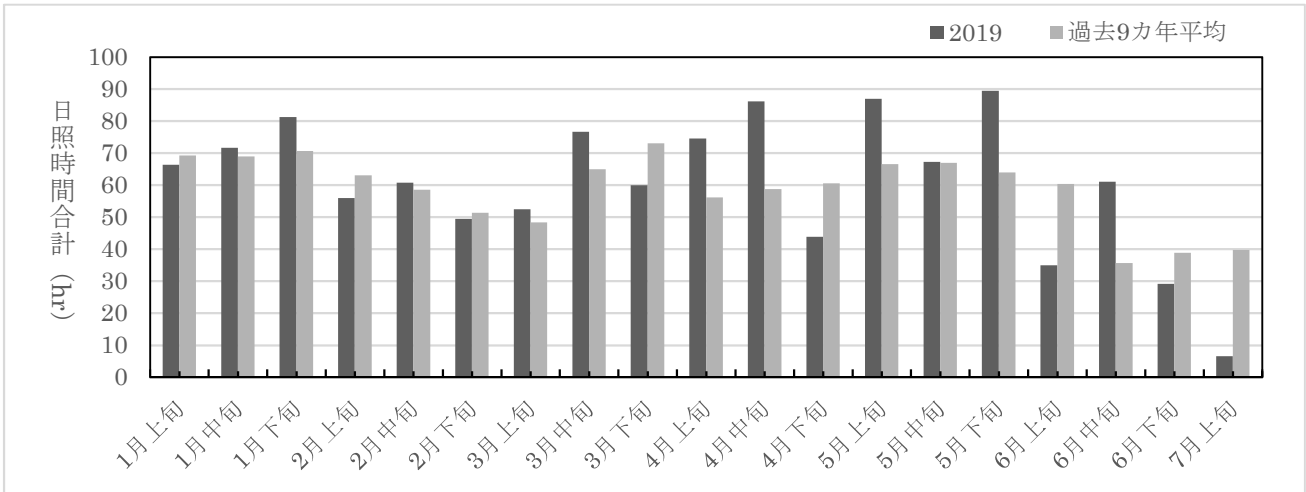
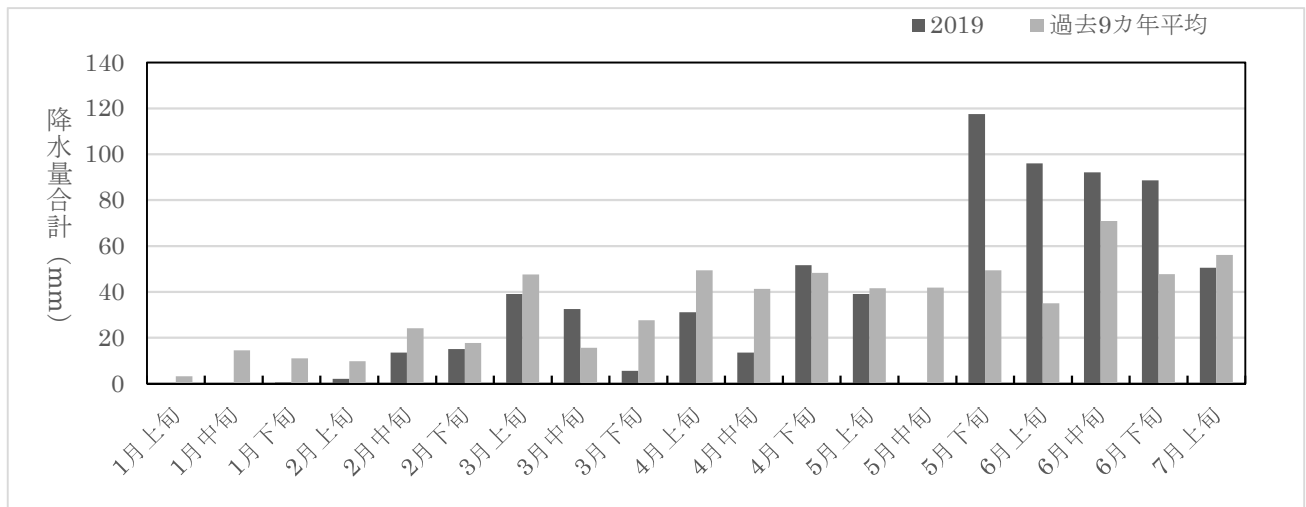
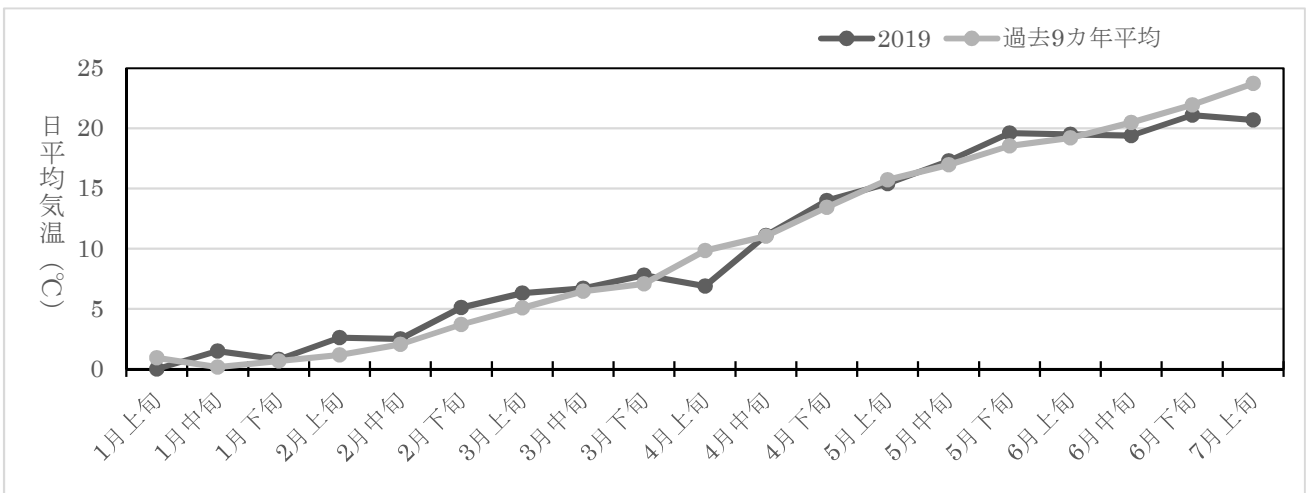
令和元(2019)年7月16日

栃木県塩谷南那須農業振興事務所経営普及部

## ☆今回の管理ポイント

梅雨入り後、低温・多雨・日照不足傾向が続いているため、黒星病や輪紋病等の防除、着果量の確認、新梢誘引、果肉障害対策等を徹底し、安定収量の確保、果実肥大促進、次年産の花芽確保を図る。

### 1 気象経過 (アメダス：那須烏山)



## 2 果実肥大状況

「幸水」及び「にっこり」は平年並で、「豊水」は平年よりやや小さい。

表1 主な品種の果実肥大経過

品種名	開花盛日	年次	果実横径mm (満開後日数)				
			30日	40日	50日	60日	70日
幸水	4/24	本年	20.8	26.8	31.1	35.8	
		平年比	100	101	99	100	
豊水	4/21	本年		24.9	28.0		
		平年比		98	95		
にっこり	4/17	本年	24.5	32.0	37.1	40.8	45.9
		平年比	103	104	102	100	100

※ 幸水、豊水：生育診断ほ(那須烏山市) にっこり：農業試験場(宇都宮市)

## 3 果実肥大予測および収穫期予測

- ・満開後40日(6月上旬)時点における果実肥大予測では、那須烏山市の「幸水」は平年並、農業試験場は「幸水」、「豊水」とも小さい予測。
- ・6月5日時点の収穫期予測では、那須烏山市は収穫始が「幸水」で平年よりも2日早く(前年より7日遅い)、「豊水」で平年より3日早くなる(前年より4日遅い)予測。

表2 生育診断ほにおける果実肥大予測及び収穫期予測

品種名	調査地点		果実肥大予測		収穫期予測	
			横径(mm)	果重(g)	収穫始	収穫盛
幸水	那須烏山市	予測値	87.3	332	8/18	8/24
		平年比	99	99	-2日	-2日
		前年比			+7日	+8日
	農業試験場	予測値	96.0	437	8/17	8/26
		平年比	97	91	-4日	-6日
		前年比			+7日	+3日
豊水	那須烏山市	予測値			9/7	9/17
		平年比			-3日	-2日
		前年比			+4日	+3日
	農業試験場	予測値	101.3	514	9/6	9/20
		平年比	97	90	-2日	±0
		前年比			+8日	+8日

※ 上段は予測値、下段は平年比。「-」は早い、「+」は遅いの意。

## 4 当面の管理ポイント

### (1) 病害虫防除

#### ○黒星病

- ・梅雨入り後の低温多雨、日照不足の影響で発生が増加傾向にあり、管内全体的に特に「幸水」で発生がやや多い状況である。
- ・罹病部位(芽基部、葉、果実)の摘み取りと園外に持ち出しての土中埋却処分を徹底する。
- ・薬剤散布は、雨前散布を基本とし、散布間隔が極端に空かないよう(12日以上)注意する。
- ・治療効果が高いQo i 剤やDMI 剤はスピードスプレーヤーの速度を落とし、薬液が葉などに十分かかるように散布する。
- ・梅雨明けが遅れ低温が続くような場合は、「幸水」の果実発病が多くなりやすいので注意する。

#### ○輪紋病

- ・梅雨期は病原菌の飛散がピークになるため、降雨が多い年は防除間隔が空きすぎると発生が多くなる。散布間隔は12日以上空かないように注意する。
- ・枝梢部への感染も盛んになるので、枝や幹にも十分薬液がかかるように留意する。

#### ○ハダニ類

- ・発生は平年並。ほ場によって散見される。
- ・発生密度が高くなると薬剤散布を実施しても発生が止まらなくなるので、園内をこまめに確認し、早期防除に努める。
- ・園内の草刈りを行うと樹上に上がってくるので、草刈り後に発生状況を確認の上防除を行う。

#### ○カメムシ類

- ・県農業環境指導センターの調査では5月まで発生量が多かったが、カメムシ類のエサとなる今年のスギやヒノキの球果量が平年よりも「かなり多い」（県林業センターからの情報）ため、果樹園への飛来は少なくなる見込み。
- ・しかし、ほ場付近にカメムシ類が好む樹種（スギ・ヒノキ、核果類（さくらを含む）、桐等）がある場合は、念のため発生に注意する。

### (2) 補正摘果

- ・今後、梅雨明けが遅れたり、低温・日照不足が続くようだと「小玉果」の増加が懸念されるので、補正摘果を始める前に着果過多になっていないか、着果量の再確認を行う。
- ・補正摘果は、各品種とも「裂果」が収まってから実施する。
- ・裂果は、果実肥大ピーク時に発生する。「幸水」、「豊水」では満開90日後頃、「にっこり」では満開130日後頃。
- ・裂果、軸折れ果、変形果、傷病果、小玉果等を中心に摘果し、「最終着果数」にする。
- ・裂果が少ない年は、最終着果数よりも多く残してしまいがちだが、必ず目標とする着果数にする。

表3 品種別の最終着果数及び目標収量（目安）

品 種	着果数（個）		目標果重 （g/個）	目標収量 （kg/10a）
	10a当たり	樹冠1m <sup>2</sup> 当たり		
幸 水	8,000	9	350	2,500
豊 水	9,000	10	450	3,500
あきづき	9,000	10	500	4,000
にっこり	6,500	7.2	850	5,000

※着果数は商品化率90%、樹冠面積占有率は90%で算出。

### (3) 新梢管理

- ・6～7月が日照不足となっているため、新梢停止期に「予備枝や新梢」の誘引を徹底し、来年のえき花芽着生と本年の果実肥大促進を図る。予備枝へのスコアリング処理も併せて行うと効果的である。
- ・予備枝から新梢が3本以上発生している場合は、1～2本残してそれ以外は切除する。
- ・芽かきや夏期せん定は必要最小限とし樹勢維持に努める。

### (4) 果肉障害対策

- ・5月の気温が平年よりやや高く、7月の気温が平年より低く推移しているため、「豊水」、「あきづき」、「にっこり」等で果肉障害（みつ症等）の発生が懸念される。
- ・発生が懸念されるほ場では、7月下旬までカルシウム剤（カルタス、カルプラス、アクアカル等）を病害虫防除と併せて葉面散布する（満開後14日から2週間間隔で5回以上）。
- ・降雨が続く場合は、明渠排水を設置し、根の活動低下を防止する。

## 5 長期予報

### (1) 1か月予報（7月11日気象庁発表 関東甲信地方7/13～8/12の天候見通し）

#### ○特に注意を要する事項

- ・期間のはじめは日照時間が少なく、気温の低い状態が続く見込み。

○予想される向こう1か月の天候

- ・期間の前半は、平年に比べ曇りや雨の日が多い。
  - ・期間の後半は、平年と同様に晴れの日が多い。
  - ・各階級の確率
- |       |   |       |     |     |   |      |
|-------|---|-------|-----|-----|---|------|
| 気 温   | 低 | い30%  | 平年並 | 40% | 高 | い30% |
| 降 水 量 | 少 | ない30% | 平年並 | 30% | 多 | い40% |
| 日照時間  | 少 | ない40% | 平年並 | 40% | 多 | い20% |

(2) 3か月予報（6月25日気象庁発表 関東甲信地方7～9月の天候見通し）

○予想される向こう3か月の天候

- ・7月 平年に比べ曇りや雨の日が多い。
  - ・8月 平年と同様に晴れの日が多い。
  - ・9月 天気は数日の周期で変わり、平年と同様に曇りや雨の日が多い。
  - ・各階級の確率
- |       |     |   |       |     |     |   |      |
|-------|-----|---|-------|-----|-----|---|------|
| 気 温   | 3か月 | 低 | い30%  | 平年並 | 30% | 高 | い40% |
|       | 7月  | 低 | い40%  | 平年並 | 30% | 高 | い30% |
|       | 8月  | 低 | い30%  | 平年並 | 40% | 高 | い30% |
|       | 9月  | 低 | い20%  | 平年並 | 40% | 高 | い40% |
| 降 水 量 | 3か月 | 少 | ない20% | 平年並 | 40% | 多 | い40% |
|       | 7月  | 少 | ない20% | 平年並 | 40% | 多 | い40% |
|       | 8月  | 少 | ない30% | 平年並 | 30% | 多 | い40% |
|       | 9月  | 少 | ない30% | 平年並 | 40% | 多 | い30% |



気象災害による農業被害を未然に防ぐため、  
技術対策情報が、携帯電話等に直接メール配信される  
**「とちぎ農業防災メール」のご登録をお願いします！**  
併せて、気象警報・注意報等が直接メール配信される  
**「栃木県防災メール」のご登録をお願いします！**



↑「とちぎ農業防災メール」  
登録はコチラから



↑「栃木県防災メール」  
仮登録はコチラから